無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集 (ム05)

研究組織　石村智、金昭賢（以上、無形文化遺産部）、二神葉子（文化財情報資料部）、宮田繁幸、松山直子、神野知恵（以上、客員研究員）

目　　的　無形文化遺産保護に関わる国際的動向の情報収集を図り、アジアを中心とする海外の研究機関等との研究交流を実施し、国内外の無形文化遺産保護に貢献する。

成　　果

1．韓国文化財庁国立無形遺産院との研究交流では、本研究所の研究員の派遣と相手機関研究員の受け入れを予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大（以下、「コロナ禍」）のため中止せざるを得なかった。代わりに両国のコロナ禍における無形文化遺産保護の現状について情報交換を行った。

2．無形文化遺産の国際的な動向に関する調査研究では、コロナ禍のためオンラインでの開催となったユネスコ無形文化遺産条約第16回政府間委員会（パリ：12月13日～18日）に2名のスタッフ（石村・二神）がリアルタイムで傍聴し、情報収集を行った。なお、本調査の成果は『無形文化遺産研究報告』第16号において報告した。

3．アジア太平洋無形文化遺産研究センター（IRCI）への協力では、研究者フォーラム「無形文化遺産研究の進展と課題－持続可能な未来に向けて－」（10月29日）、国際シンポジウム「無形文化遺産の貢献－より良い学びと持続可能なまちづくりに向けて－」（12月21日～22日）、に1名のスタッフ（石村）がリソースパーソンとして出席した。

4．ユネスコ・イコモス共催国際会議『Culture, Heritage and Climate Change（ICSM CHC）』に1名のスタッフ（石村）が専門家として参加し、気候変動と文化遺産保護の問題について各国の専門家と議論を行うとともに、ポスター発表を行った。

5．コロナ禍における無形文化遺産の現状と課題について、国内外の情報を収集し、それをウェブサイト及びSNSによって発信した。また、ユネスコのウェブサイトにコロナ禍における日本の無形文化遺産の現状と課題の報告を掲載した。

論　文

- 石村智：「無形文化遺産としてのカヌー文化」『モノ・コト・コトバの人類史：総合人類学の探求』雄山閣　pp.203-218　22.3

報　告

- 二神葉子：「無形文化遺産の保護に関する第16回政府間委員会における議論の概要と今後の課題」『無形文化遺産研究報告』16　pp.1-27　22.3
- 石村智：「オセアニアにおける無形文化遺産保護条約の現状と課題」『日本オセアニア学会Newsletter』132　pp.1-11　22.3

発　表

- 石村智：「Geoarchaeological information and cultural heritage disaster risk management: Cases in Japan」ユネスコ・イコモス共催国際会議『Culture, Heritage and Climate Change（ICSM CHC）』　オンライン開催　21.12.7
- 石村智：「無形文化遺産としてのカヌー文化：近年の動向」日本オセアニア学会第39回研究大会　オンライン開催　22.3.1